

水戸葵陵高等学校医歯薬コース

医歯薬通信

2017年2月

SANS FRONTIÈRES

vol.25

水戸葵陵高等学校ホームページ <http://www.kiryu.ac.jp/>

はじめに

2月22日の衆議院予算委員会の分科会で、厚生労働省は2020年度末までに、「重症心身障害児向け施設」をすべての市区町村に少なくとも1ヵ所以上設置する目標を掲げる方針を決めたことを明らかにしました。身近な場所に通える施設を設けることで、施設に入所することが多い重症心身障害児が自宅で過ごす事ができるようになり、家族の負担も軽減されるとあります。

世界に誇るわが国の新生児医療の発達で、新生児死亡率は1957年頃から急激に減少しました。ところが、恐らく予想もしなかった事態が発生したのです。それは、多くの子どもを救命したがゆえ、救命できたもののさまざまな障害が残った子供たちが増加したのです。その中でも最も障害が重かったのが、自力で歩けない、話せない重症心身障害児です。当時、社会から存在を認知されておらず、生きて行くためのさまざまな法制度や社会資源も整備されていませんでした。

1964年に「全国重症心身障害児を守る会」が結成され、重症心身障害児施設の建設運動が活発化したのが始まりですが、今回の決定までに半世紀以上かかっています。医療の発達は喜ばしいことではありますが、その影にこの様な問題も発生しているということ、医療従事者を目指す生徒には知っておいてもらいたいと思います。

修学旅行

医歯薬コース2年生は、11月16日～11月21日に修学旅行に行ってきました。今年度の旅行先は、本校初、オーストラリアです。シドニー、ブリスベン、ゴールドコーストに行きました。オーストラリアは夏。日差しがまぶしく、ゴールドコーストの海はとてきれいでした。

街歩きをしたり、国立公園で自然を観察したり、現地の方々と会話したり、日本ではできない様々な体験を楽しみました。中でも、希望して現地の医療従事者の方と交流した生徒たちはかなり刺激を受けたようです。「医療のグローバル化を感じた」「『相手を受け入れる』ということについて考えた」などの感想がありました。



1日HR(大学見学会)

9月21日に医歯薬コース1・2年生合同で大学見学会へ行ってきました。4つのコース①医学、②薬学、③保健医療、④理工学系統に分かれ、それぞれ2つの大学を見学しました。医学コースでは、昭和大学・帝京大学の見学に参加し、各年次での学習内容・授業日程にいたるまで、医学部で学ぶこと、医学生としての生活をうかがい知ることができました。生徒達は授業風景や学内で用いる実習器具などの見学を経て、大学への歩みを大いに実感している様子でした。



いのちの学習会

12月17日に本校1・2年生と保護者水戸英宏中2年生対象にいのちの学習会を開催しました。今回の講師は平成21年度にも講演頂きましたドナーファミリーの会代表の田中和行先生です。田中先生は、交通事故で脳死に陥った娘さんの臓器移植について講演して下さいました。明るく旅行が好きだった理恵さんが、ハワイでスカイダイビングに挑戦する姿を写したビデオ映像や思い出の写真を交えながら、涙ながらに「いのちの大切さ」についてご自身の体験をお話いただき、生徒たちは真剣に聞いていました。理恵さんの臓器は7人のレシピエントの元に運ばれ、移植は成功し、患者に希望をもたらした娘さんの7つの宝石、田中さんは「移植を受けた7人の中に理恵は生きている」と話しておられました。生徒はいのちについて、臓器移植について、それぞれが深く考える契機になったようです。田中先生、貴重なお話をありがとうございました。



笠間マラソンボランティア

12月18日に第11回かさま陶芸の里ハーフマラソン大会が実施されました。私がこの大会に関わるのは3回目になります。1、2回目はランナーとして参加しましたが、今回はボランティアスタッフに挑戦しました。参加ランナーも年々増えている大きな大会で本校生は給水係、スープサービス係、記録証発行係などの仕事を担当しました。初めてスタッフとして大会に携わる中で、ランナーの時には気づけなかった大変さを実感しました。ランナーには水の他にバナナやスープなど栄養補給の食品の提供が重要になります。スムーズに提供することが大切ですが、相手にとって何が必要なのか考えて行動する事が求められていると分かりました。参加した他の本校生からも「普段の行事も多くの人の支えによって成り立っている。」「ありがとう、ごろうさまの声がうれしい。」「誰かのために頑張ることにやりがいを感じた。」などの声がありました。この「誰かのために本当に役立つとは何か」という感覚を大切に、将来の方向性についてより深く考えたいと思いました。(2年女子)

医師講演会

10月26日に本年度第1回の意志講演会が行われました。今回は、「生きいき診療所・ゆうき」院長でいらっしゃる、荒井康之先生においでいただきました。先生には以前も講演していただきました。今回は「医師の仕事とは？ 社会における医師の役割とは？」というテーマで、統計データや先生の体験なされたことを交えて、たいへんわかりやすく、興味深い講演をしてくださいました。

今までの「病気とたたかう医療」だけではなく、患者さんやそのご家族の生活や思いを「ささえる医療」がこれからは大切であり、そのためには在宅医療が大きな役割を持つのだという内容が心に残りました。



大学合格実績

医歯薬コース所属生徒は本年度の推薦入試において、筑波大学（医学群医学類、理工学群化学類、応用理工学類、人間学群障害科学類、心理学類）、茨城県立医療大学保健医療学部放射線技術科学科、群馬大学工学部電子情報理工学科等、国公立大学7名の他、日本歯科大学生命歯学部、昭和大学薬学部などの私立大学に多数合格をしました。1年次から3年後のことを考え、進路志望校の特徴や入試問題の傾向等の研究を重ねていました。しかし、今年は2020年から実施される新テストを意識してか傾向が大きく変化した大学がありました。本校生はこのような変化にもうまく対応できたようです。入試は推薦入試ではありません。センター試験を受験し一般入試で受験する生徒もたくさんいます。3月まで粘り強く取り組んだ生徒に毎年いい結果が出ています。入試は「最後まで諦めない」これが一番大切なことのようにです。